

9月15日（木）フォーラム活動として2回目の「企業・行政等施設見学会を」開催しました。

参加者は事務局を含めて総勢28名。朝方降っていた雨も止み、あいにくの曇り空でしたが、無事終了することができました。

施設見学会は、東京湾の環境改善や環境再生施設などを訪問して、東京湾再生のためのノウハウの共有や現在の東京湾での活動施設の事例をさまざまな立場の方の目で見ることによって情報共有を図り今後の活動の参考として頂くフォーラム交流活動の一つです。

【高島水際線公園】 見学はまず、横浜みなとみらい中央地区の帷子川下流に（独）都市再生機構が造成した「高島水際線公園潮入りの池」を見学しました。

「高島水際線公園」の管理は、現在横浜市に移管されており、2011年5月にオープンしたものです。最初は河口部に造成された人口干潟等に生物が生息するかどうかを見る試験的な施設で、現在はゴカイやカニなどが棲みついているとのこと。周りは高層マンションやオフィスビルが立ち並び、都会の中のアオアシスといった雰囲気があります。

公園では、2015年5月に活動を始めた「高島水際線公園愛護会」会長坪倉良和様と事務局吉野生也様から、愛護会の生い立ち、活動内容等を説明していただきました。活動は、2ヶ月に1回清掃活動を兼ねて生き物生息調査が行われており、活動の参加者は毎回30名程で、清掃道具は、保管用のロッカーと共に市から支給されているとのことでした。



高島水際線公園愛護会会長坪倉様（中央左）から説明を受ける参加者



高島水際線公園



高島水際線公園
（干潟部の葦は自然に生育したもの）



高島水際線公園に隣接するビル群

【横浜港見学】見学コースの2番目は、国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所所有の港湾業務艇「たかしまⅡ」での横浜港見学です。

参加者は京浜港湾事務所企画調整課長有路様から、横浜港の主要施設、横浜港の貿易、物流などの説明をして頂きながら横浜港を見学しました。



関東地方整備局京浜港湾事務所 有路企画調整課長から説明を受ける参加者



「たかしまⅡ」から見たMM21地区



横浜ベイブリッジ



ガントリークレーンで荷役中の船（本牧ふ頭）

【潮彩の渚】3番目の見学は、関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所の「潮彩の渚」です。関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所環境課長 春田様から「潮彩の渚」が作られた経緯等も説明を頂きました。

《潮彩の渚のできた背景》 関東地方整備局が取りまとめた「東京湾水環境再生計画（案）（平成18年3月）」、港湾空港部の「関東地域の港湾の基本方針—みなとのギアチェンジャー（平成18年2月）環境分野の行動計画」などが策定されていました。これらの計画の多くで、東京湾の環境改善に干潟・浅場等の再生が必要不可欠であることが共通認識として謳われており、このような背景の中、横浜港湾空港技術調査事務所構内の栈橋が老朽化に伴い撤去することが決定されたことにより、かねてから東京湾での自然環境の保全・再生・創出に取り組んできたノウハウを活かし、撤去跡地に人工干潟を造成することが計画されました。他方、

防災の面から見た場合、既設護岸の老朽化が進んでおり、耐震補強などの老朽化対策の必要性が指摘されており、環境・親水・防災の側面から新たな環境整備策を検討する必要性がありました。このような課題を解決する技術として「潮彩の渚」が検討されました。

《潮彩の渚の目的》 潮彩の渚を整備する目的は、以下の4点です。

- (1) 狭い空間での干潟・磯場造成手法の開発・検証
- (2) 干潟・磯場生態系の成立の実証と環境改善効果の検証
- (3) 多様な主体による活動機会の提供と海に親しむことによる環境改善意識の熟成
- (4) 老朽化護岸の強化（護岸構造の耐震性の強化）

私たちが行った時は潮位が高い時間となったため、「潮彩の渚」の干潟を見ることはできませんでしたが、映像等で詳細な説明をして頂きました。



潮彩の渚を見学する参加者



潮が引いた時の潮彩の渚
(横浜港湾空港技術調査事務所 HP より)

「潮彩の渚」は、研究機関との協定による協働調査や、一般に公開して、市民向け生物調査の実施、近隣小学生の環境学習の場としても提供されています。



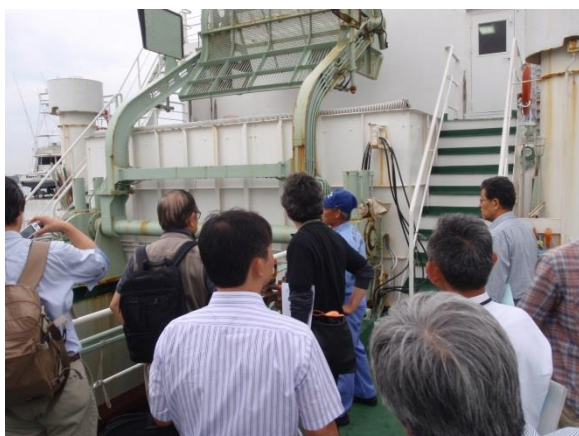
「潮彩の渚」について説明を受ける参加者



「潮彩の渚」を活用した小学校環境学習
(見学会配布資料より)

【清掃船兼油回収船べいくりん】4番目の見学施設は、千葉港湾事務所所有「清掃船兼油回収船べいくりん」です。「べいくりん」は、横浜港湾空港技術調査事務所構内の水域に係留されています。〇〇港と呼ばれる港は、港湾管理者（主には地方自治体）が清掃を行うこととなっており、港湾管理者の管轄以外の一般海域と呼ばれる海域の浮遊ゴミや浮遊油の回収作業を国が行っています。

べいくりんセンターの菅原係長から「東京湾海洋環境整備事業」について説明を受けた後係留中の「べいくりん」に乗船し、土屋船長から浮遊ゴミの回収の仕方や処理について説明を受けました。台風や大雨の後は、浮遊ゴミが特に多くなることや、時には冷蔵庫、ドラム缶、大木などを回収するとの話も聞かせていただきました。



「べいくりん」の船上で土屋船長から説明を受ける参加者



「べいくりん」によって回収された浮遊ゴミ



時には、こんな大木がべいくりんによって回収されることもあります



見学会最後に「べいくりん」をバックに集合写真（お疲れ様でした。）